

海産カイアシ類に寄生する隔口類繊毛虫 *Vampyrophrya pelagica* の phoront 期における微細構造の変化

金澤 篤志^{1,2}, 洲崎 敏伸², 安藤 元紀¹, 大塚 攻³

(¹岡山大学・院教育・細胞生理, ²神戸大学・院理・生物, ³広島大学・院生物圏科学・瀬戸内圏
フィールド科学教育研究センター・竹原ステーション)

【要旨】 *Vampyrophrya pelagica* の生活史は、細胞の形態と機能が異なる 4 つのステージから構成される。Phoront 期には、宿主であるカイアシ類に付着するための柄や、シスト壁が形成される。さらに、この時期の細胞内には、多層膜状構造が確認されている。本研究では、この時期における細胞内構造の変化を電顕的に解析した。その結果、phoront 初期における細胞表面には、柄やシスト壁の形成に関係すると考えられる膜結合型の小胞が存在していた。また、phoront 中期から後期に、細胞内の油滴から多層膜状構造が形成されることがわかった。